非行少年像の実証的研究
——性別，成績別，学生生活別差異を中心に——

矢島正見

はじめに

この論文は昨年（1982年）行なった非行少年に対するイメージ調査の第2部の発表論文である。第1部は，日本犯罪社会学会編『犯罪社会学研究』8号に掲載された「中学生にみる非行少年像」という論文である。[1]そこでは非行少年像の全体的把握を行なったので，今回のこの論文では調査対象者の属性によるイメージ等の差異を分析していくことにする。

第1章　調査の目的と方法

この章は「中学生にみる非行少年像」の記述と多分に重複するものであるが，第2章以降の分析を理解していただくためにはどうしても必要と思われる故，あえて重複を恐れず記述させていただくことにする。

(1) 問題の所在

今回の調査は2つの疑問から始められた。1つは，広く専門家の間で言及されているところの，学校不適応少年は「問題児」「悪い子」というレッテルを先生や「良い子」達から貼られ，クラスから排除されるために，さらに問題性を深め，非行への道を歩んでいくことになる，という理論に対しての疑問である。

たしかに，非行少年と学業成績との関係などは実証化されており，学校生活での不適応が非行発生の重要な要因であるということは疑いえないところである。がしかし，問題少年だけが先生や「良い子」達もしくは一般の生徒から一方的にマイナスのレッテルを貼られ，排除され，孤立化しているのであろうか，むしろその逆の現象もあるのではないか，という疑問が残る。つまり，問題少年達がクラスを支配したり，そこまでいかなくともクラスの人気者であったりして，一般少年達は問題少年達の味方となり，一緒になって，先生や「良い子」や「まじめな子」にマイナスのレッテルを貼り，クラスから排除ないし孤立化させる，ということも充分ありえるのではないか，という疑問である。言い換えれば現代の学校（特に中学校）では，我々が認知している以上に流動的な力関係が存在し，いかなる少年も，いつ排除され，孤立化させられるか分からない，といった状況にあるのではないか，という疑問なのである。

これら2つの認識の違いは，私には「学校文化」と「生徒文化」の，どちらの視点に立っているかの違いからきているものと思われてならない。[2]

知育，体育，徳育を教育基本法の理念に基づき教え，子供を社会化させていくといった機能を有し，社会的成功達成のための正当な手段を与える公的な制度としての学校集団という視点からみるならば，先生と「良い子」（もしくは頭の良い子）が一緒になって，「おちこぼれ」少年や「問題少年」を排除し，孤立化または分凝化（segregate）させる，という理論が出てくるであろう。一方，学校とは同輩集団の「たまり場」であり，そこでは多種多様な友好関係そしてまたそれ故，多種多様な対立関係が存在し，大衆的で流動的でかつ逸脱的な青年文化が入り込み，多様な価値観と認識が存在する，という「生徒文化」の視点に立つならば，問題少年だけが一方的にマイナスのイメージでみられ，マイナスのレッテルを貼られ，排除されているというのではなく，逆に問題少年の方からも，いわゆる「良い子」とか「まじめな少年」などをマイナスのイメージで捕え，さらにマイナスのレッテルを貼り（たとえば「ゴマスリ」「ガリベン」「イモ」「ダサイやつ」「ムカつくやつ」「ネクラ」など），排除するという状況もある，という推論が成り立つ。[3]この立場に立つ限り（私もそうであるが），生徒指導やクラス運営には，どうしても生徒

間の流動的な力関係，多様なイメージとレッテルの貼り合い（ラベリングと逆ラベリング）の実態を知っておく必要がある。これが今回の調査を行なった第1の理由である。

疑問の2つ目は，高橋良彰氏の「青少年の非行少年像」に対してのそれであった。[4]この疑問は私に細目的な目的を抱かせることになった。氏は「非行少年像」を「まじめな生徒像」と対比させることにより，そのイメージ上の特徴を析出しようとしたのであるが，第1に「非行少年像」という単一のイメージが果たしてどれほど存在しているものなのであろうか，という疑問を起こさせた。何故なら，一般の少年達は「非行少年」という抽象度の高い，総体的イメージよりも，個々の，たとえば「暴走族少年」「シンナー乱用少年」といったイメージにより親しんでいるのではないか，そしてそれは個々のイメージは近似しつつも異なったものとして，中学生に受け止められているのではないか，と思えたからである。

第2に，「まじめな生徒」は比較群にはなりえないのではないか，という疑問を起こさせた。「まじめな生徒像」と「非行少年像」とを比べて，その差異より「非行少年像」の何たるかを知るという方法は，暗黙のうちに「まじめな生徒」を少年一般の中心に据えていることになる。ところが現代少年の平均像は決して「まじめな生徒像」ではない。「非行少年像」が平均的少年像からずれていると予測しえるのと同様に，「まじめな生徒像」もずれていると予測しえるのである。したがって「まじめな生徒像」とは別の現代の平均的少年像を操作的に創出し，それを基本に多様な非行少年群のイメージの相異をみていくことこそ必要なのではないか，と思えたのである。そしてさらに，それができたとき，各非行少年群（もしくは問題少年群）のイメージのいくつかは，案外平均的少年像に近く，むしろ「まじめな少年」の方のが平均的少年像から遠い，ということが発見されるかも知れない，と思えたのである。

(2) 調査の枠組

上記の問題意識に導かれながら，次の様な枠組を設定した。

1．「暴走族少年」「校内暴力少年」「シンナー乱用少年」「万引き少年」の4少年を非行少年群として選定し，それに「ツッパリ少年」を加えて，問題少年群とした。

2．中学生の「自分自身」についてのセルフ・イメージを尋ね，それの平均値を，平均的少年像とした。

3．この他に「まじめな少年」を加え，計7少年についてのイメージを尋ねた。なお，これら7少年は，イメージを比較する必要上，年齢を調査対象者（中学3年生）と同じ位と条件づけた。

4．7少年のイメージを捉えるため，表4以降で示すとおり，33項目の質問が設定された。また，33項目への評定は「そうだ」「どちらとも言えない」「ちがう」の3段階法にした。

5．イメージは虚像であるかも知れない。イメージはあくまでもイメージであり，現実の人間関係や行為を反映させてはいない，ということも多々ある。そこで「自分自身」を除いた6少年達と自分との社会的距離（どのような関係でいたいか），および交友回避順位（友達になりたくない順位）を尋ねることにした。このことにより，イメージと共に6少年に対して一般中学生が望んでいる人間関係の差異を見い出すのである。

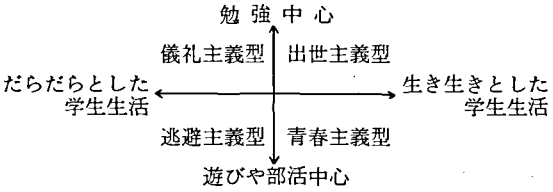
6．調査対象者の属性として，第1に性別を尋ねた。第2に学校での成績を「上」「中」「下」に分けて尋ねた。その際，「上」は100人中1番から33番ぐらい，「中」は100人中34番から66番ぐらい，「下」は100人中67番から100番ぐらい，と理念的には3分の1づつになるようにした。

7．学生生活の過ごし方が，どちらかというと勉強中心かそれとも遊びや部活中心か，また，どちらかというと生き生きとしているか，それともだらだらとしているか，を尋ねることによって，図1に示すとおり，「出世主義型」（勉強中心で生き生きとした学生生活）「儀礼主義型」（勉強中心でだらだらとした学生生活）「青春主義型」（遊び・部活中心で生き生きとした学生生活）「逃避主義型」（遊び・部活中心でだらだらとした学生生活）とに現代中学生を4分類した。

(3) 仮説命題の設定と検証された命題および本稿で検証される命題

以上の枠組より，次の様な命題を設定した。

図1　学生生活の過ごし方の4類型



① 中学生は問題少年群に対して多様なイメージを持つ。それにはマイナスのイメージのみならず，プラスのイメージもある。

② 問題少年群はそれぞれイメージに違いを示す。

③ 中学生は「まじめな少年」に対して，プラスのイメージのみならず，マイナスのイメージも持っている。

④ 「自分自身」のイメージ（平均的中学生像）は「まじめな少年」に近いものもあれば，問題少年群に近いものもある。

⑤ 6少年に対して中学生が望む人間関係は，「まじめな少年」歓迎，問題少年群排除という一色とは限らない。

⑥ 以上のことより，問題少年の一方的な孤立化，問題少年への一方的なラベリング説は修正される。生徒間には多様な認識が存在し，相互的なラベリングが存在する。

⑦ そしてこの命題⑥を導き出す基底として，「生徒文化」の存在が想定される。

以上の7命題について検証したのが前に記した，第1部の調査報告論文「中学生にみる非行少年像」である。この論文により，命題の①から⑤までの，いわば調査により直接証明される特殊命題は，「真」であることが証明された。また，①から⑤の命題より論理的に推定されるところの，今すこし抽象度の高い⑥および⑦の命題は，論理的推定により充分「真」である可能性が高いことが分析された。

本稿は以上の前提に立って，次の諸命題を検証するものである。

命題⑧　7少年のイメージは男子生徒と女子生徒によって違いを示す。

命題⑨　6少年に対して望む人間関係は男子生徒と女子生徒によって違いを示す。

命題⑩　命題⑧と⑨より，男子生徒と女子生徒では，問題少年や「まじめな少年」に対する認識およびラベリングに違いがあると推定しえる。

命題⑪　命題⑩の背景として，男子生徒と女子生徒では「生徒文化」の内容に違いがあると推定しえる。

命題⑫　上記命題⑧から⑪までのことは，学業成績の「上」の生徒，「中」の生徒，「下」の生徒の間でも当てはまる。

命題⑬　さらに上記命題⑧から⑪までのことは，学生生活の過ごし方の「出世主義型」の生徒，「儀礼主義型」の生徒，「青春主義型」の生徒，「逃避主義型」の生徒の間でも当てはまる。

要するにこれらの命題は，既に証明された，もしくは推論された，命題①から⑦に対して，性別，成績別，学生生活の過ごし方別にどの様な異なりがあるか，ということを分析しようとするものなのである。

(4) 調査の対象と方法

1．中学生で一番問題化する時期は中学2年の後半から3年の前半までである，という現場の意見があり，また問題少年を対象者と同じ位の年齢と条件づけたので，調査対象は中学3年生とした。

2．対象中学生の選定では，地域差や階層差は今回の調査では求めないので，都市化された住宅地域にあり，中流意識をもったサラリーマン家庭（ホワイトカラーおよびブルーカラー層）が大半を占めているところ，という2点を大前提とし，横浜市の公立中学2校，千葉県習志野市の私立中学1校，千葉県市原市の公立中学1校の計4校を選定し，中学3年生に対して全数調査を行なった。なお，学校間に大きな差異は分析の結果見い出せなかった。

3．調査期間は，昭和57年5月中旬から7月中旬にかけて行なわれた。調査方法は質問紙による集合調査法を用い，実施は担任の先生に一任した。なお，担任の先生には前もって集合調査法の場合の諸注意事項を知らせておいた。

4．調査対象者数は1392名，有効票数および有効票率は1245名，89.4%であった。集合調査法にしては無効票数がやや多いが，これは全部もしくは一部白紙の票およびまじめに回答していないと判

表1　性別×成績別（比率）

性＼成績	上	中	下	計
男	21.8(133)	48.1(294)	30.1(184)	100(611)
女	16.2(103)	58.5(371)	25.2(160)	100(634)
計	19.0(236)	53.4(665)	27.6(344)	100(1245)

（　）内は実数。

表2　性別×学生生活の過ごし方別（比率）

生活＼性	男	女	計
出世主義	10.6(65)	11.5(73)	11.1(138)
儀礼主義	10.1(62)	10.6(67)	10.4(129)
青春主義	39.8(243)	46.5(295)	43.2(538)
逃避主義	39.4(241)	31.4(199)	35.3(440)
計	100.0(611)	100.0(634)	100.0(1245)

（　）内は実数。

表3　成績別×学生生活の過ごし方別（比率）

生活＼成績	上	中	下	計
出世主義	24.2(57)	10.1(67)	4.1(14)	11.1(138)
儀礼主義	17.3(41)	9.2(61)	7.8(27)	10.4(129)
青春主義	33.9(80)	47.4(315)	41.6(143)	43.2(538)
逃避主義	24.6(58)	33.4(222)	46.5(160)	35.3(440)
計	100.0(236)	100.0(665)	100.0(344)	100.0(1245)

（　）内は実数。

定しえた票（複数者の一致した判定）を無効票としたためである。なお集計にあたっては，東京大学の大型電算機を用いた。

(5)　調査対象者の属性

有効票数1245名の性別，成績別，学生生活の過ごし方別の実数と比率は表1，表2，表3に示すとおりである。

表1は性別と成績別をクロスさせたものである。理念的（もしくは確率論的）には，計は3分の1づつ同率になるはずであるが，表でみるとおり，「中」に集中している。成績「上」の生徒は，かなり謙遜したひかえめな自己評価をしている。特に女子生徒の場合それが著しい。それに比べれば，成績の「下」の生徒は，やや「中」に流れている者がいるものの，それなりに自己を客観的に評価しているようである。できる生徒の「できる」という自己表示に対するうしろめたさ，といったものが中学生の間にあるような気がする数値である。

表2は学生生活の過ごし方別と性別とをクロスさせた表である。この表からは，「青春主義型」および「逃避主義型」が，つまり遊びや部活中心の学生生活を過ごしている生徒が，男女共8割近くいるということが分かる。学校は勉強するところ，という「学校文化」は理屈では分かっていても，実際は遊びや部活中心に学生生活が進行しているという，どちらかといえば「生徒文化」中心の中学生の生活状況が理解される。こうした状況は，男子生徒も女子生徒も共に変わりなく，勉強中心の学生は少数派ということになるであろう。

表3は学生生活の過ごし方別と成績別とをクロスさせたものである。成績「上」の生徒では「出世主義型」が24％いるのに対して，「下」の生徒ではわずかに4％である。逆に「逃避主義型」は「上」の生徒では25％であるが，「下」の生徒では半数近くになっている。ここから，学生生活の過ごし方は性別では差異は見受けられないが，成績別では差異が析出されることが分かる。

第2章　少年非行像の性的差異

(1)　7少年に対するイメージの性的差異

表4は，男子生徒と女子生徒の7少年に対するイメージをスコア化して表わしたものである。表の注にあるとおり，数値は質問の33項目それぞれに対して，「そうだ」を1点「どちらとも言えない」を2点「ちがう」を3点として，その平均を求めたものである。また，○印は，T-TEST（両側検定）により95％有意水準で男子生徒と女子生徒間に有意差が認められた項目のうち，肯定的イメージの方を表わしている。肯定的イメージとは，例えば「心がやさしい」という項目では「そうだ」

表4　7少年に対するイメージの性的差異

	校内暴力少年		暴走族少年		ツッパリ少年		万引き少年		乱用少年		まじめな少年		自分自身	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1．自分勝手である	1.50	1.52	1.40	1.45	1.54	○1.67	1.48	1.47	1.54	1.49	2.10	2.14	○2.01	1.90
2．子供の頃いじめっ子だった	1.96	○2.16	1.94	○2.11	2.06	○2.31	2.27	2.32	2.10	2.15	2.50	2.45	2.60	○2.70
3．大学まで進学できるだろう	2.46	○2.37	2.53	2.48	2.33	2.27	2.20	2.19	2.51	2.55	1.38	1.35	1.86	1.89
4．心がやさしい	2.20	○2.02	2.13	○1.93	2.00	○1.76	2.08	2.08	2.23	○2.12	○1.92	2.06	○1.66	1.78
5．おとなになったら出世する	2.36	2.33	2.41	2.35	2.31	2.25	2.28	2.32	2.47	2.53	1.57	1.61	○1.95	2.08
6．さびしがりやである	○1.73	1.47	○1.68	1.39	○1.67	1.32	○1.73	1.59	○1.64	1.44	1.94	○2.03	○2.08	1.70
7．クラスの友達にきらわれている	1.84	1.83	1.89	1.92	2.00	2.01	○1.98	1.88	1.83	1.79	○1.99	1.86	2.34	2.29
8．落ちついている	2.56	2.63	2.50	2.48	2.45	2.44	○2.29	2.43	○2.57	2.64	1.45	○1.37	2.10	2.06
9．青春を楽しんでいる	2.10	2.18	1.63	1.56	1.81	1.81	○2.21	2.34	2.25	2.29	2.29	2.29	1.66	1.66
10．おとなになったらまじめな生活を送る	2.14	2.07	2.20	○2.09	2.08	○1.99	2.15	2.18	2.39	2.42	○1.43	1.52	○1.52	1.59
11．勉強ができる	2.43	2.39	2.49	○2.40	2.34	○2.23	2.18	2.18	2.52	2.56	1.40	1.40	○2.12	2.20
12．「かっこいい」または「ナウい」	2.31	2.35	1.98	1.99	2.06	2.02	○2.53	2.62	○2.51	2.60	○2.53	2.66	○2.30	2.42
13．先生に好かれている	2.76	2.76	2.67	2.70	2.63	2.58	2.40	2.46	2.65	2.69	1.35	○1.28	2.04	2.04
14．素直である	2.42	2.37	2.35	2.26	2.33	2.32	○2.33	2.40	2.44	2.44	○1.77	1.88	○1.81	1.91
15．遊び好きである	1.37	○1.50	1.26	1.25	1.29	1.35	1.57	1.58	1.46	1.43	○2.24	2.50	1.39	○1.56
16．おとなになったら心のやさしい人になる	2.15	○2.01	2.13	○1.96	2.04	○1.90	2.14	2.10	2.25	○2.17	○1.94	2.04	○1.61	1.73
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	1.44	1.42	1.41	1.42	1.45	1.41	1.68	1.56	○1.52	1.41	1.74	1.70	2.18	2.27
18．スポーツが得意である	1.73	1.76	1.75	○1.64	1.76	1.79	2.07	2.04	2.23	2.16	2.32	2.39	○1.85	2.02
19．将来に向かって努力している	2.53	2.55	2.55	2.52	2.48	2.50	○2.45	2.54	2.67	2.68	1.35	1.37	1.73	1.79
20．遊びと他の生活とのけじめができている	2.63	2.60	2.63	○2.50	2.60	2.60	2.48	2.51	2.69	2.70	1.39	1.36	1.97	1.90
21．若々しさがある	○2.04	2.17	1.80	1.84	○1.93	2.03	○2.31	2.44	○2.51	2.61	○2.28	2.38	1.67	1.61
22．親とうまくいっている	○2.65	2.74	2.72	2.77	○2.58	2.69	○2.45	2.58	○2.67	2.78	1.46	1.47	1.55	1.48
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	2.48	○2.33	2.43	○2.31	2.37	2.31	2.42	2.41	2.56	2.53	1.57	1.56	○1.79	1.88
24．性経験が進んでいる	1.81	1.86	○1.60	1.50	○1.73	1.57	2.08	2.06	○1.85	1.66	2.44	○2.64	2.56	○2.74
25．正義感が強い	2.28	○2.08	2.32	○2.07	2.19	○2.09	2.53	2.54	2.49	2.46	1.92	1.90	1.80	1.82
26．性格が暗い	○2.06	2.00	2.17	2.19	2.18	2.12	○1.85	1.74	1.78	1.72	○1.81	1.72	2.44	2.50
27．遊び中心の生活をしている	1.47	○1.61	○1.43	1.35	1.42	1.44	1.69	1.72	○1.54	1.44	○2.56	2.70	1.90	○2.16
28．おとなになったら幸せな生活ができる	2.27	○2.19	2.26	○2.17	2.23	○2.14	2.23	2.25	2.43	2.40	○1.79	1.88	1.72	1.75
29．異性にもてる	2.10	2.12	1.96	○1.84	1.94	○1.85	2.24	2.29	2.30	2.34	○2.20	2.35	○2.23	2.33
30．ルールを守って遊べる	2.62	2.59	2.64	2.57	2.56	2.55	○2.49	2.56	2.64	2.67	1.48	1.42	1.63	1.61
31．意志が弱い	1.94	1.94	1.95	1.95	1.99	1.95	○1.68	1.53	○1.73	1.51	1.94	1.90	2.05	2.00
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	1.78	1.85	1.81	1.74	1.73	1.76	1.88	1.93	1.98	1.97	1.91	1.95	1.28	1.32
33．おとなになったら良い親になる	2.22	○2.15	2.25	○2.14	2.16	○2.07	2.25	2.26	2.40	2.38	○1.77	1.86	1.66	1.69

注1）数値は「そうだ」を1点，「どちらとも言えない」を2点，「ちがう」を3点としたときの平均値である。よって $1 \leqq x_i \leqq 3$ であり，2.00が中位となる。
2）○印はT-TESTにより両側検定95%有意水準で有意差の認められた項目の内，イメージが肯定的な方。

という答えの方のが，イメージ対象を肯定的にとらえているので，数値の小さい方の側が今一方よりも肯定的に対象をイメージしている，ということである。また，「自分勝手である」という項目では今度は「ちがう」という答えの方が，イメージ対象を肯定的にとらえているので，ここでは逆に数値の大きい方の側が今一方よりも肯定的に対象をイメージしている，ということになるのである。

まず最初に一番左側の校内暴力少年のイメージについてみると，有意差の認められる項目が14項目あり，そのうち肯定的イメージの方は男子生徒の側が4項目であるのに対して女子生徒の側は10項目である。よって男子よりも女子の方のが校内暴力少年に対して肯定的なイメージを持っていると結論づけられるのである。

次に暴走族少年に対するイメージであるが，有意差の認められる項目が15項目あり，そのうち肯定的イメージの方は男子生徒の側が3項目，女子生徒の側が12項目である。したがって暴走族少年に対しても，男子生徒よりも女子生徒の方のが肯定的イメージを抱いているといえる。

同様にツッパリ少年に対するイメージも，有意差の認められる項目14項目中，肯定的イメージの方は男子生徒側が4項目，女子生徒側が10項目である。したがってツッパリ少年に対しても，男子生徒よりも女子生徒の方のがイメージを肯定的に捕えているわけである。

次に万引少年に対するイメージであるが，ここでは有意差の認められる項目が12項目でこの全てが男子の側で肯定的イメージとなっている。よって万引き少年に対しては今までと逆に，女子生徒よりも男子生徒の方がイメージを肯定的に捕えているといえよう。

シンナー乱用少年に対するイメージでは，有意差の認められる項目が11項目で，肯定的イメージの方は男子生徒側9項目，女子生徒側2項目であり，男子生徒の方のが女子生徒よりもシンナー乱用少年に肯定的なイメージを抱いていることが分かる。

まじめな少年に対するイメージでは，有意差の認められる項目が17項目あり，このうち肯定的イメージの方は男子生徒の側が13項目，女子生徒の側が4項目と，男子生徒の側の方が多い。したがって女子生徒よりも男子生徒の方が，まじめな少年に対するイメージはより肯定的である。

最後に自分自身に対するイメージであるが，有意差の認められる項目が16項目で，そのうち肯定的イメージの方は男子生徒の側が12項目，女子生徒の側が4項目である。したがって自分自身に対するイメージも，女子生徒よりも男子生徒の方が肯定的に捕えていることが分かる。

以上，7少年それぞれに対する男子生徒と女子生徒のイメージの差異についてみてきたわけであるが，女子生徒の方が肯定的なイメージを抱いている少年群（逆にいえば男子生徒の方が否定的なイメージを抱いている少年群）には，校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年があり，反対に，男子生徒の方が肯定的なイメージを抱いている少年群（逆にいえば女子生徒の方のが否定的イメージを抱いている少年群）には，万引き少年，シンナー乱用少年，まじめな少年，自分自身があった。このことより，命題⑧の，7少年のイメージは男子生徒と女子生徒によって違いを示す，という仮説は検証されたことになる。またさらに，女子生徒は，男性的で，ラフな，暴力的傾向の強い問題少年群に対して，イメージが甘い，ということも発見されたのである。“犯罪の影に女あり”ではないが，校内暴力，暴走，ツッパリの影に女子生徒の支援あり，という危険性が潜んでいるといえよう。

(2) 望む関係の性的差異

問題少年やまじめな少年とどの様な関係でいたいか，ということも「生徒文化」を知る上で重要な手がかりとなる。表5は，校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年，万引き少年，シンナー乱用少年，そしてまじめな少年の6少年と，どのような関係でいたいかを，最も友好的な関係を「友達になりたい」とし，最も嫌悪的な関係を「他の学校に転校して欲しい」として，5段階に区分して尋ねてみたものである。

全体を通してみると，第1に「友達になりたい」という比率も「他の学校に転校して欲しい」という比率も，女子生徒よりも男子生徒の方のが高いということに気付く。このことは女子生徒が社会的距離を中庸にとっているのに対して，男子生徒

表5　6少年に対する社会的距離の性別差異（比率）

6　少　年	校内暴力少年		暴走族少年		ツッパリ少年		万引き少年		乱用少年		まじめな少年	
望む関係＼性	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
友達になりたい	5.7	3.6	7.7	5.5	12.4	11.2	5.9	1.7	4.1	1.7	30.3	20.7
軽いつきあいならしてもいい	11.6	9.0	14.6	12.9	33.6	36.4	15.1	10.7	7.7	5.0	25.9	30.1
同じクラスにいてもかまわない	26.7	29.8	31.6	42.3	31.6	37.4	40.3	42.4	28.2	25.7	28.2	36.1
同じクラスにいて欲しくない	23.1	29.5	19.3	21.9	12.1	11.8	24.5	34.9	30.4	39.9	7.4	7.6
他の学校に転校して欲しい	32.9	28.1	26.8	17.4	10.3	3.2	14.2	10.3	29.6	27.6	8.3	5.5

男 N＝611，女 N＝634

表8　6少年に対する社会的距離の成績別差異（比率）

6　少　年	校内暴力少年			暴走族少年			ツッパリ少年			万引き少年			シンナー乱用少年			まじめな少年		
望む関係＼成績	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
友達になりたい	4.2	3.8	6.7	5.9	3.2	12.2	11.0	9.2	17.4	5.1	2.4	5.5	3.0	1.8	4.9	38.6	23.6	19.8
軽いつきあいならしてもいい	9.3	9.6	12.2	9.7	15.5	13.1	30.1	36.1	36.3	12.7	11.4	15.7	5.1	5.9	8.1	27.1	27.5	29.7
同じクラスにいてもかまわない	22.0	29.2	30.8	34.7	37.6	37.5	31.8	36.7	32.3	39.4	41.1	43.3	25.0	27.2	27.6	23.7	37.0	28.8
同じクラスにいて欲しくない	27.1	27.2	24.1	19.9	21.4	19.8	15.7	12.6	8.1	27.1	33.5	24.4	34.3	35.3	35.8	4.7	6.8	10.8
他の学校に転校して欲しい	37.3	30.2	26.2	29.7	21.7	17.4	11.4	5.4	5.8	15.7	11.6	11.0	32.6	29.8	23.5	5.9	5.1	11.0

上 N＝236，中 N＝665，下 N＝344

表10　6少年に対する社会的距離の学生生活別差異（比率）

6　少　年	校内暴力少年				暴走族少年				ツッパリ少年				万引き少年				シンナー乱用少年				まじめな少年			
望む関係＼生活	出世	儀礼	青春	逃避	出世	儀礼	青春	逃避	出世	儀礼	青春	逃避	出世	儀礼	青春	逃避	出世	儀礼	青春	逃避	出世	儀礼	青春	逃避
友達になりたい	1.4	5.4	3.0	7.5	2.9	4.7	5.9	9.1	6.5	6.2	11.2	15.9	2.2	1.6	2.4	6.6	2.9	0.8	1.7	5.0	43.5	36.4	19.9	23.2
軽いつきあいならしてもいい	5.8	3.9	10.6	13.2	7.2	5.4	13.6	18.4	29.0	24.0	38.7	35.7	8.7	11.6	13.0	14.3	5.8	4.7	5.8	7.7	29.0	30.2	26.4	29.1
同じクラスにいてもかまわない	19.6	18.6	31.0	30.5	33.3	35.7	39.4	35.7	33.3	38.0	34.9	33.4	33.3	37.2	44.8	40.9	16.7	22.5	28.6	29.3	20.3	27.1	37.2	31.4
同じクラスにいて欲しくない	34.8	25.6	28.3	21.6	17.4	23.3	23.0	18.0	17.4	19.4	11.0	9.3	36.2	35.7	29.0	27.0	34.8	39.5	36.2	33.0	5.1	3.1	9.1	7.5
他の学校に転校して欲しい	38.4	46.5	27.1	27.3	39.1	31.0	18.0	18.9	13.8	12.4	4.3	5.7	19.6	14.0	10.8	11.1	39.9	32.6	27.7	25.0	2.2	3.1	7.4	8.9

出世主義型 N＝138，儀礼主義型 N＝129，青春主義型 N＝538，逃避主義型 N＝440

表6　交友回避順位

	性		成　　績			学生生活の過ごし方			
	男	女	上	中	下	出世型	儀礼型	青春型	逃避型
ツッパリ少年	⑤ 4.60	⑤ 4.86	⑤ 4.56	⑤ 4.72	⑥ 4.85	⑤ 4.52	⑤ 4.27	⑤ 4.81	⑥ 4.83
万引き少年	④ 3.44	③ 3.06	④ 3.48	④ 3.18	③ 3.20	④ 3.27	④ 3.40	④ 3.25	④ 3.19
シンナー乱用少年	① 2.12	① 1.82	① 2.03	① 1.92	① 2.02	① 2.12	① 2.16	① 1.88	① 1.97
校内暴力少年	② 2.84	② 2.97	② 2.79	② 2.91	② 2.99	③ 2.75	② 2.67	② 2.92	② 3.01
暴走族少年	③ 2.85	④ 3.18	③ 2.81	③ 2.99	③ 3.20	② 2.59	③ 2.85	③ 3.02	③ 3.18
まじめな少年	⑥ 5.06	⑥ 4.98	⑥ 5.29	⑥ 5.14	⑤ 4.60	⑥ 5.56	⑥ 5.52	⑥ 4.96	⑤ 4.78

数値は友達になりたくない順（1番から6番まで）の平均値。
○内の数字は平均値の順位。

の方は友好（もしくは容認）の者と嫌悪（もしくは排除）の者とに分かれていることを物語っていよう。

第2に，校内暴力少年，暴走族少年，万引き少年，シンナー乱用少年といった非行少年群と友好的関係でいたい（「友達になりたい」と「軽いつき合いならしてもいい」）とする容認派が約1割から2割いること，ならびにまじめな少年を嫌悪する（「同じクラスにいて欲しくない」と「他の学校に転校して欲しい」）排除派が約15%前後いることは注目すべきことであろう。1つのクラスが，まじめ支持派と問題少年支持派とに分かれ，そこにレッテルの貼り合いとダイナミックな駆け引きが行なわれているという状況の存在が，充分考えられるからである。

こうしたことを別の角度から尋ねたのが表6である。これは6少年に対して「友達になりたくない」順に順位をつけてもらった，その平均値を表わしたものである。よって数値が低い程嫌われている（逆に数値が高い程好かれている）ことになる。

表の左側のマル数字にみるとおり，男子生徒と女子生徒では，3位と4位とが万引き少年と暴走族少年とで入れ替わっただけで，あとの順位は全て同じである。がしかしよく見ると，女子生徒は男子生徒よりもツッパリ少年，校内暴力少年，暴走族少年に対して友好的であり，反対に万引き少年，シンナー乱用少年，まじめな少年に対しては，嫌悪的であることが読みとれる。これは既に記したイメージでの男子生徒と女子生徒との差異と一致するものであり，興味深い結果といえよう。

以上のことより，第1に男子生徒の場合，友好的対応と嫌悪的対応とに2分離する傾向があるのに対して，女子生徒の場合は，中庸的もしくは第三者的対応を示すことが分かった。第2に，わずかではあるが，男子生徒と女子生徒は，イメージでの違いと全く同様の違いを，望む人間関係でも示していることが分った。したがって6少年に対して望む人間関係は男子生徒と女子生徒によって違いを示す，という命題⑨は検証されたといえよう。

(3)　生徒文化の性的差異

この節はこの章のまとめであると同時に命題⑩，⑪に対する推論でもある。

シンナー乱用少年，万引き少年は他の問題少年群に比べ，女子生徒のイメージおよび望む人間関係が悪かった。よってそのような少年がいた場合，クラスから排除され，レッテルを貼られる可能性はより強くなるであろう。暴走族少年，校内暴力少年は嫌われてはいるが，それでも容認する生徒も1から2割いるし，女子生徒の第三者的認識の寛容さのため，一方的に排除され，ラベリングされるとは必ずしもいえないところである。ましてやツッパリ少年に対する容認は男女共かなり高いので，ツッパリ少年の動向いかんによっては，逆にまじめな少年の方が排除され，ラベリングされる可能性も充分考えられる。その際のパターンで考えられるのは，今までの分析から想定すると，一部の問題少年とまじめな少年が対立する。次にツッパリ少年や問題少年群容認生徒が一部の問題少年に同調する。女子生徒のかなりの部分が第三

表7-a　7少年に対するイメージの成績別差異

	校内暴力少年			暴走族少年			ツッパリ少年		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1．自分勝手である	1.40	1.50	○1.58	1.36	1.39	◎●1.52	1.47	*1.61	○1.69
2．子供の頃いじめっ子だった	1.97	2.07	○2.11	2.00	2.01	2.07	2.12	2.19	2.22
3．大学まで進学できるだろう	2.52	*2.40	○2.37	2.57	2.50	2.47	2.41	*2.29	○2.23
4．心がやさしい	2.16	2.10	2.07	2.10	2.02	1.97	1.97	*1.86	○1.84
5．おとなになったら出世する	2.33	2.34	2.35	2.47	2.37	○2.34	2.36	*2.26	2.26
6．さびしがりやである	1.53	1.59	1.63	1.51	1.53	1.55	1.48	1.50	1.49
7．クラスの友達にきらわれている	1.75	1.85	1.87	1.85	1.88	●1.98	1.92	1.99	○2.07
8．落ちついている	2.65	2.62	◎●2.51	2.62	*2.48	○2.42	2.58	*2.44	○2.36
9．青春を楽しんでいる	2.22	2.14	2.09	1.72	*1.56	1.58	1.92	*1.78	1.79
10．おとなになったらまじめな生活を送る	2.18	2.10	2.09	2.19	2.13	2.14	2.12	*2.01	2.02
11．勉強ができる	2.48	2.43	◎●2.33	2.55	*2.45	○2.37	2.39	*2.29	○2.21
12．「かっこいい」または「ナウい」	2.46	*2.34	◎●2.24	2.16	*1.98	○1.88	2.21	*2.04	○1.92
13．先生に好かれている	2.83	2.78	◎●2.69	2.75	2.67	2.66	2.71	*2.59	○2.56
14．素直である	2.47	2.40	2.35	2.35	2.29	2.29	2.41	2.30	2.33
15．遊び好きである	1.44	1.45	1.40	1.28	1.21	●1.31	1.31	1.30	1.37
16．おとなになったら心のやさしい人になる	2.16	2.08	○2.02	2.12	2.03	2.01	2.05	1.97	○1.92
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	1.39	1.42	1.49	1.34	1.39	◎●1.52	1.39	1.42	1.48
18．スポーツが得意である	1.74	1.76	1.72	1.72	1.67	1.70	1.84	1.77	1.74
19．将来に向かって努力している	2.62	2.55	◎●2.45	2.60	2.56	◎●2.43	2.57	2.49	○2.44
20．遊びと他の生活とのけじめができている	2.67	2.64	◎●2.52	2.60	2.57	2.51	2.68	*2.58	2.58
21．若々しさがある	2.25	*2.09	○2.04	1.92	*1.78	1.83	2.17	*1.97	○1.88
22．親とうまくいっている	2.77	2.70	◎●2.60	2.78	2.75	2.70	2.67	2.64	2.61
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	2.45	2.39	2.39	2.40	2.37	2.35	2.40	2.33	2.32
24．性経験が進んでいる	1.84	1.84	1.82	1.50	1.55	1.58	1.64	1.65	1.66
25．正義感が強い	2.31	*2.18	○2.08	2.33	*2.20	○2.09	2.28	*2.12	○2.06
26．性格が暗い	1.97	2.01	2.03	2.14	2.18	2.20	2.10	2.15	2.18
27．遊び中心の生活をしている	1.50	1.55	1.55	1.42	1.35	●1.45	1.36	1.44	1.45
28．おとなになったら幸せな生活ができる	2.28	2.22	2.19	2.33	*2.20	○2.17	2.29	*2.16	○2.15
29．異性にもてる	2.17	2.12	2.07	1.89	1.90	1.90	1.87	1.89	1.91
30．ルールを守って遊べる	2.68	2.62	◎●2.50	2.65	2.62	2.54	2.61	2.55	2.53
31．意志が弱い	1.84	1.94	○2.01	1.88	1.92	◎●2.07	1.78	*1.97	◎●2.10
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	1.89	1.81	1.79	1.83	1.77	1.73	1.84	1.74	○1.71
33．おとなになったら良い親になる	2.28	*2.16	○2.15	2.29	*2.19	○2.14	2.25	*2.09	○2.06

注1）表4の注1）と同じ。
2）T-TESTにより両側検定95%有意水準で有意差の認められた項目の内，　*印は「上」と「中」とでイメージが肯定的な方。
○印は「上」と「下」とでイメージが肯定的な方。●印は「中」と「下」とでイメージが肯定的な方。

表7-b　7少年に対するイメージの成績別差異（つづき）

	万引き少年			シンナー乱用少年			まじめな少年			自分自身		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1．自分勝手である	1.46	1.45	1.53	1.52	1.51	1.53	○2.20	2.12	2.06	1.97	1.97	1.91
2．子供の頃いじめっ子だった	2.32	2.27	2.34	2.11	2.11	2.16	2.53	2.45	2.48	2.70	2.66	2.58
3．大学まで進学できるだろう	2.17	2.21	2.19	2.57	2.52	2.51	1.33	1.34	1.43	○*1.48	●1.83	2.24
4．心がやさしい	2.09	2.09	2.05	2.24	2.16	2.17	○1.93	●2.00	2.11	○*1.62	1.74	1.75
5．おとなになったら出世する	2.33	2.31	2.26	2.59	*2.48	○2.47	1.62	1.59	1.60	○*1.87	●2.01	2.14
6．さびしがりやである	1.64	1.67	1.64	1.52	1.53	1.57	1.94	1.98	2.03	1.86	1.91	1.87
7．クラスの友達にきらわれている	1.89	1.92	1.98	1.73	1.80	○●1.89	1.92	1.91	1.95	2.36	2.32	2.26
8．落ちついている	2.46	2.38	○●2.26	2.61	2.65	●2.54	○1.36	●1.39	1.49	○*1.93	●2.07	2.21
9．青春を楽しんでいる	2.34	2.32	○●2.15	2.34	2.25	2.26	2.24	2.29	2.33	1.70	●1.62	1.72
10．おとなになったらまじめな生活を送る	2.19	2.16	2.15	2.46	2.39	2.40	○1.39	●1.46	1.56	○*1.42	●1.54	1.68
11．勉強ができる	2.23	2.18	2.16	2.59	2.55	2.51	1.38	1.39	1.44	○*1.63	●2.14	2.57
12．「かっこいい」または「ナウい」	2.56	2.60	2.54	2.63	2.58	○●2.46	○2.51	2.60	2.65	2.35	2.35	2.38
13．先生に好かれている	2.45	2.44	2.42	2.69	2.68	2.65	1.31	1.30	1.35	○*1.91	●2.03	2.14
14．素直である	2.40	2.35	2.37	2.50	2.42	2.44	1.77	1.86	1.81	1.81	1.84	1.93
15．遊び好きである	1.55	1.59	1.58	1.43	1.43	1.48	2.32	2.36	2.44	○1.59	●1.49	1.36
16．おとなになったら心のやさしい人になる	2.20	*2.11	○2.08	2.28	2.21	2.18	○*1.89	2.00	2.04	○*1.60	1.68	1.71
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	1.59	1.62	1.64	1.43	1.45	1.51	1.72	1.75	1.66	2.25	●2.27	2.14
18．スポーツが得意である	2.07	2.07	2.01	2.18	2.20	2.19	2.34	2.34	2.39	2.04	1.93	○1.89
19．将来に向かって努力している	2.53	2.52	○●2.41	2.72	2.70	○●2.60	1.36	1.36	1.37	○*1.53	●1.74	1.96
20．遊びと他の生活とのけじめができている	2.56	2.49	2.47	2.70	2.72	●2.63	1.39	1.35	1.40	○*1.77	●1.91	2.10
21．若々しさがある	2.46	2.42	○●2.24	2.67	*2.55	○2.49	2.25	2.34	2.38	1.68	1.63	1.62
22．親とうまくいっている	2.55	2.52	2.48	2.79	2.72	○2.68	1.44	1.46	1.47	○1.46	●1.46	1.66
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	2.44	2.42	2.40	2.56	2.56	2.50	1.51	1.57	1.60	○*1.64	●1.83	1.95
24．性経験が進んでいる	2.08	2.10	2.02	1.66	1.76	○1.82	2.50	2.57	2.49	2.63	●2.71	2.55
25．正義感が強い	2.60	2.57	○●2.43	2.55	2.49	○●2.39	○1.80	●1.90	2.02	○*1.68	1.82	1.89
26．性格が暗い	1.77	1.79	1.83	1.60	*1.77	○1.82	1.78	1.76	1.77	2.49	●2.50	2.38
27．遊び中心の生活をしている	1.69	1.69	1.76	1.49	1.46	1.55	2.65	2.63	2.61	○*2.26	●2.07	1.81
28．おとなになったら幸せな生活ができる	2.31	2.23	○2.19	2.51	*2.39	2.42	○*1.75	1.85	1.87	○*1.63	1.73	1.80
29．異性にもてる	2.26	2.29	2.23	2.33	2.33	2.29	2.24	2.29	2.27	2.28	2.26	2.32
30．ルールを守って遊べる	2.61	2.53	○2.46	2.68	2.68	●2.59	1.44	1.42	1.50	○*1.48	●1.59	1.78
31．意志が弱い	1.49	1.56	○●1.76	1.53	1.61	○1.71	2.00	1.91	1.88	○2.14	●2.06	1.89
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	1.93	1.92	1.87	2.07	*1.95	1.95	1.91	1.93	1.95	1.36	*●1.25	1.36
33．おとなになったら良い親になる	2.32	2.26	○2.19	2.44	2.39	2.37	1.76	1.82	1.85	○*1.59	1.70	1.70

者的にそれを容認し，寛容的態度をとる。それにより問題少年達はクラスを支配する。残った生徒は，良いことではない，こまったことだと思いながらも無関心を装う。こうしてまじめな少年の方のが孤立化する，というプロセスが考えられる。しかし，もし最初の対立が女子生徒間であったらどうであろうか。今度はおそらく女子生徒が対立の渦の中に入り込み，男子生徒が第三者的態度をとることであろう。

したがって命題⑩，⑪への推論としては，同性の場合には直接的な力関係と相互的ラベリングと排除が，異性の場合には間接的なそれへの支援，容認，排除が存在する，とだけ述べておこう。

第3章　非行少年像の成績別差異

(1)　7少年に対するイメージの成績別差異

第2章で7少年に対するイメージの性的差異について論じたので，この章でもまず始めに，7少年に対するイメージの成績別の差異について考察してみたい。表7-aと表7-bをみていただきたい。(表を2つに分けたのは単に1つでは大きすぎてスペースの中に入らないからで，他意はない。)

「上」と「中」,「上」と「下」,「中」と「下」それぞれに対してどちらが肯定的にイメージ化しているかを調べたので，記号はより多くなっているが，まずはじめに校内暴力少年のイメージについてみてみると，成績「上」の生徒の方は肯定的イメージが1項目もなく，また成績「中」の生徒では，わずかに5項目（5記号）なのに対して，成績「下」の生徒の方では16項目（24記号）にものぼる。したがって成績「下」の生徒は「上」の生徒もしくは「中」の生徒に比べて，校内暴力少年を肯定的にイメージ化しているといえる。

次に暴走族少年のイメージについてみてみると，肯定的イメージの方は成績「上」の生徒の側は0項目，「中」の生徒の側は8項目（8記号）そして，「下」の生徒の側は14項目（18記号）と，やはり圧倒的に「下」の生徒の側に片寄っている。つまり成績「中」の生徒は成績が「上」の生徒以上に暴走族少年を肯定的にイメージ化し，「下」の生徒はそれ以上に肯定的にイメージ化している，というわけである。

ツッパリ少年に対するイメージも同様に成績「上」の生徒では肯定的イメージは0項目で，成績「中」の生徒では16項目（16記号），そして「下」の生徒では16項目（17記号）となっている。ここでも「上」の生徒と「下」の生徒の差異がはっきりと表われているが，前2少年とやや違うところは，「上」の生徒と「中」の生徒との間にも肯定的イメージの項目の数にちがいが多く出ているということであり，さらに「中」の生徒と「下」の生徒ではほとんど有意差がみられないということである。つまり，「中」の生徒と「下」の生徒が共にツッパリ少年のイメージを肯定的に捕えているのに，「上」の生徒だけが他の2生徒に比べてより否定的にイメージ化しているのである。今少しいえば，校内暴力少年へのイメージでは，「上」と「中」の生徒が一緒で，「下」の生徒だけが肯定的イメージを抱いていたのが，暴走族少年へのイメージでは，「中」の生徒は「上」の生徒と「下」の生徒の中間になり，そしてツッパリ少年へのイメージでは，「中」と「下」の生徒が一緒になって肯定的イメージを抱いているという状態になっているのである。

表7-bの万引き少年に対するイメージでは，成績「下」の生徒の側に肯定的イメージが10項目（16記号）あり，やはり成績「下」の生徒が「上」や「中」の生徒に比べイメージが肯定的である，といえよう。

シンナー乱用少年に対するイメージも，成績「中」の生徒の側に5項目（5記号），成績「下」の生徒の側に13項目（17記号）肯定的イメージがあり，ここでもやはり成績「下」の生徒の方が「中」や「上」の生徒よりもイメージを肯定的に捕えている，というわけである。

まじめな少年に対してのイメージはどうであろうか。今度は逆に8項目（10記号）が成績「上」の生徒の側でより肯定的になっている。したがって，まじめな少年に対しては成績が「上」の生徒の方がイメージを肯定的に捕えていることになる。

最後に自分自身に対するイメージであるが，これもまじめな少年と同様成績「上」の生徒や「中」の生徒の方が，自己のイメージを肯定的に捕えている。しかも自分自身のことは他の6少年に比べ

るとイメージ化しやすいらしく，ほとんどの項目で「上」「中」「下」全てのカテゴリー間で有意差があらわれている。イメージが肯定的な方は「上」の生徒の側が19項目（35記号），「中」の生徒の側が19項目（20記号）あるのに対して，「下」の生徒の側は1項目（1記号）でしかない。成績「下」の生徒のセルフ・イメージの貧しさが表われていよう。

以上，7少年に対するイメージを成績別にみてきたわけであるが，成績「下」の生徒は校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年，万引き少年，シンナー乱用少年の問題少年群に対してイメージが比較的寛容であることが分かった。しかしまじめな少年と自分自身に対しては，イメージが否定的であった。これと正反対なのが成績「上」の生徒のイメージである。問題少年群に対してはイメージが厳しかったが，まじめな少年と自分自身のイメージでは「下」の生徒に比べ，かなり肯定的であった。また，成績が「中」の生徒は常に「上」の生徒と「下」の生徒の中間に位置し，ある場合には「上」の生徒に近く，ある場合には「下」の生徒に近づく，という状態を示している。したがって，7少年のイメージは成績「上」「中」「下」の生徒によって違いを示す，という命題⑫-aは検証されたといってよいであろう。

(2) 望む関係の成績別差異

第2章と同様に6少年とどのような関係でいたいかを，ここでは成績別にみてみた。表8（77頁）がそれである。

まず校内暴力少年との関係であるが，友好的な関係（「友達になりたい」「軽いつきあいならしてもいい」）でいたい生徒（容認派）が，「上」と「中」で13%程であるのに対して「下」では18.9%と高い。この傾向は暴走族少年でも同じで，容認派が「上」で15.6%であるのに対して「下」では25.3%と，4人に1人は友好的でありたいと思っていることが分かる。しかもそのうち1割強の生徒が暴走族と「友達になりたい」と答えているのである。さらに万引き少年やシンナー乱用少年に対しても，わずかではあるが「下」の生徒は「上」や「中」の生徒に比べると，友好的関係を望む比率が高くなっている。また，ツッパリ少年に対しては，成績「下」の生徒は「友達になりたい」者が2割弱で，さらに容認派は過半数を越えている。

ところがまじめな少年に対しては，成績「上」の生徒の38.6%が「友達になりたい」と答えているのに対して，「下」の生徒では19.8%と少ない。そして逆に，嫌悪的対応（「同じクラスにいて欲しくない」と「他の学校に転校して欲しい」）を示す生徒（排除派）が「下」では21.8%にまで達しているのである。

こうしたことを別の角度から尋ねたのが前出の表6である。この表で示されているとおり，成績が「下」の生徒は「上」の生徒に比べ，校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年に対して寛容的受容的である。特にツッパリ少年に対しては，まじめな少年に対してよりも好意的である。つまり，成績「下」の生徒はまじめな少年よりもツッパリ少年と友達になりたがっているのである。

以上のことから，6少年に対して望む人間関係は成績「上」「中」「下」の生徒によって違いを示す，という命題⑫-bは検証されたといってよいであろう。

(3) 生徒文化の成績別差異

成績「上」の生徒と成績「下」の生徒とではイメージに大きな違いがあった。成績「下」の生徒は問題少年群に対してイメージが寛容であり，まじめな少年や自分自身に対してはイメージが否定的であった。しかし成績「上」の生徒はその正反対を示した。イメージの違いは認識の違いである。そして認識の違いはラベリングの前提である。したがってレッテル貼りに成績の違いが影響を与えていると考えてさしさわりなかろう。事実イメージの違いだけでなく，望む関係も成績によって違っていた。成績「下」の生徒は問題少年群に対して比較的好意的であったし，そればかりか，まじめな少年に対して嫌悪を示す生徒も少なからず（5人に1人）いた。こうした状況にあっては，クラスで「できる子」と「できない子」が互いにレッテルを貼り合ったり，対立したりすることが多々あるであろうし，その際「できる子」が「できない子」を一方的に排除するということにはならないであろう。もっと生徒どうしの関係はダイナミックである。ツッパリ少年が成績「下」の生

表9-a　7少年に対するイメージの学生生活別差異

	校内暴力少年				暴走族少年				ツッパリ少年			
	出世型	儀礼型	青春型	逃避型	出世型	儀礼型	青春型	逃避型	出世型	儀礼型	青春型	逃避型
1．自分勝手である	1.29	1.35	○△1.54	●▲1.59	1.25	1.35	○1.44	●1.48	1.40	1.40	○△1.63	●▲1.70
2．子供の頃いじめっ子だった	1.89	1.94	○△2.11	●2.09	1.99	1.99	2.07	2.00	2.04	2.16	*○2.26	2.15
3．大学まで進学できるだろう	2.54	2.48	○△2.35	2.43	2.70	+2.50	○2.46	●2.50	2.45	2.38	○2.26	●2.27
4．心がやさしい	2.27	2.33	○△2.01	●▲2.10	2.13	2.26	○△1.98	●▲1.97	2.03	2.02	○△1.82	●▲1.85
5．おとなになったら出世する	2.50	2.47	○△2.30	▲2.33	2.54	2.48	○2.36	●▲2.33	2.46	2.39	○△2.24	●▲2.23
6．さびしがりやである	1.52	1.64	*1.55	1.66	1.54	1.63	1.49	1.56	1.59	1.52	○1.45	1.50
7．クラスの友達にきらわれている	1.62	1.64	○△1.89	●▲1.90	1.78	1.91	1.89	●1.95	1.87	2.02	○2.03	2.00
8．落ちついている	2.64	2.67	2.61	2.54	2.54	2.55	2.51	2.44	2.55	2.64	△2.45	●▲2.35
9．青春を楽しんでいる	2.15	2.26	2.14	2.12	1.71	1.70	1.59	●1.53	1.86	1.95	1.82	▲1.73
10．おとなになったらまじめな生活を送る	2.27	2.19	○2.10	●▲2.05	2.32	2.16	○2.15	●2.08	2.14	2.15	2.02	●▲1.98
11．勉強ができる	2.54	2.50	○△2.37	●2.39	2.54	2.54	○△2.41	2.43	2.40	2.43	○△2.22	▲2.28
12．「かっこいい」または「ナウい」	2.45	2.53	△2.32	●▲2.25	2.21	2.22	○△1.96	●▲1.87	2.21	2.34	○△2.03	*●1.91
13．先生に好かれている	2.83	2.85	△2.74	2.75	2.75	2.71	2.65	2.69	2.69	2.62	○2.57	2.62
14．素直である	2.47	2.48	2.39	2.36	2.41	2.40	2.26	2.29	2.43	2.40	2.29	2.32
15．遊び好きである	1.45	1.43	1.43	1.43	1.29	1.29	1.23	1.26	1.41	1.31	1.33	1.29
16．おとなになったら心のやさしい人になる	2.20	2.16	○2.05	●2.05	2.17	2.22	○△2.01	●▲2.00	2.04	2.07	△1.95	1.94
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	1.33	1.36	1.41	●1.50	1.36	1.35	1.44	1.43	1.36	1.40	1.46	1.43
18．スポーツが得意である	1.75	1.82	1.74	1.75	1.77	1.73	1.69	1.66	1.86	1.85	1.78	●▲1.72
19．将来に向かって努力している	2.67	2.67	○△2.50	●▲2.50	2.67	2.70	○△2.50	●▲2.48	2.62	2.61	○△2.47	●▲2.44
20．遊びと他の生活とのけじめができている	2.75	2.67	○2.59	●2.59	2.65	2.64	2.54	2.54	2.72	2.67	○2.57	●2.58
21．若々しさがある	2.23	2.34	△2.09	●▲2.02	2.04	1.98	○△1.80	●▲1.73	2.17	2.21	○△1.97	●▲1.87
22．親とうまくいっている	2.80	2.79	○△2.67	●▲2.65	2.80	2.76	2.72	2.75	2.68	2.68	2.61	2.65
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	2.54	2.54	○△2.35	●▲2.39	2.57	2.41	○2.33	●2.35	2.45	2.40	○2.31	●2.32
24．性経験が進んでいる	1.84	1.88	1.82	1.84	1.51	1.60	1.55	1.55	1.59	1.72	1.63	1.66
25．正義感が強い	2.36	2.29	○2.14	●2.14	2.37	2.35	○△2.13	●▲2.17	2.33	2.30	○△2.08	●▲2.10
26．性格が暗い	1.97	1.96	2.00	2.04	2.17	2.10	2.16	2.23	2.06	2.05	2.18	2.16
27．遊び中心の生活をしている	1.50	1.57	1.57	1.51	1.30	1.33	1.40	1.42	1.43	1.37	1.46	1.40
28．おとなになったら幸せな生活ができる	2.33	2.33	○△2.17	2.23	2.41	2.28	○△2.15	●2.21	2.33	2.23	○2.14	●2.17
29．異性にもてる	2.15	2.26	2.15	*▲2.03	1.92	2.01	1.90	▲1.86	1.98	1.95	1.89	1.86
30．ルールを守って遊べる	2.75	2.66	○2.58	●2.57	2.73	2.62	○2.58	●2.59	2.61	2.60	2.58	2.50
31．意志が弱い	1.83	1.88	1.97	1.96	1.89	1.85	2.00	1.94	1.80	1.86	○2.02	●1.99
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	1.99	+1.79	○1.78	●1.80	1.89	1.84	1.76	●1.73	1.88	1.81	○1.68	1.77
33．おとなになったら良い親になる	2.41	+2.23	○2.13	●2.15	2.38	2.25	○2.16	●2.17	2.28	2.19	○△2.06	●2.11

注1）表4の注1)と同じ。
2）T-TESTにより両側検定95%有意水準で有意差の認められた項目の内，　＋印は「出世主義」と「儀礼主義」とでイメージが肯定的な方。○印は「出世主義」と「青春主義」とでイメージが肯定的な方。●印は「出世主義」と「逃避主義」とでイメージが肯定的な方。△印は「儀礼主義」と「青春主義」とでイメージが肯定的な方。▲印は「儀礼主義」と「逃避主義」とでイメージが肯定的な方。＊印は「青春主義」と「逃避主義」とでイメージが肯定的な方。

表9-b　7少年に対するイメージの学生生活別差異（つづき）

	万引き少年				シンナー乱用少年			
	出世型	儀礼型	青春型	逃避型	出世型	儀礼型	青春型	逃避型
1．自分勝手である	1.36	1.36	1.48	●▲1.55	1.42	1.51	1.49	*●1.58
2．子供の頃いじめっ子だった	2.21	2.33	○2.33	2.28	2.10	2.12	2.15	2.10
3．大学まで進学できるだろう	2.28	2.15	2.20	2.18	2.62	2.60	2.51	2.50
4．心がやさしい	2.23	2.13	○2.02	●2.09	2.17	2.32	△2.14	▲2.17
5．おとなになったら出世する	2.39	2.36	2.28	2.28	2.63	2.60	○2.48	●▲2.46
6．さびしがりやである	1.72	1.74	1.61	1.66	1.54	1.56	1.51	1.57
7．クラスの友達にきらわれている	1.75	1.83	○1.94	●▲2.00	1.68	1.82	1.80	●1.86
8．落ちついている	2.48	2.42	○2.33	2.35	2.61	2.68	2.63	2.57
9．青春を楽しんでいる	2.39	2.38	○△2.22	2.28	2.33	2.34	2.26	2.24
10．おとなになったらまじめな生活を送る	2.28	2.19	○2.14	●2.15	2.44	2.45	2.40	2.38
11．勉強ができる	2.27	2.16	2.16	2.19	2.66	2.59	○2.50	2.55
12．「かっこいい」または「ナウい」	2.64	2.72	△2.55	▲2.55	2.59	2.73	△2.56	▲2.49
13．先生に好かれている	2.48	2.51	2.43	2.41	2.70	2.71	2.65	2.68
14．素直である	2.49	2.43	○2.32	2.36	2.51	2.47	2.42	2.44
15．遊び好きである	1.56	1.56	1.57	1.60	1.49	1.46	1.44	1.44
16．おとなになったら心のやさしい人になる	2.30	2.16	○2.08	●2.08	2.28	2.26	2.19	2.20
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	1.46	+1.67	○1.64	●1.63	1.38	1.42	1.46	1.50
18．スポーツが得意である	2.05	2.04	2.05	2.06	2.17	2.24	2.19	2.19
19．将来に向かって努力している	2.60	2.60	○△2.46	●2.47	2.81	2.77	○△2.64	●▲2.65
20．遊びと他の生活とのけじめができている	2.61	2.57	○2.45	2.50	2.84	2.74	○2.65	●2.68
21．若々しさがある	2.49	2.60	○△2.33	●▲2.34	+2.54	2.76	△2.55	▲2.51
22．親とうまくいっている	2.62	2.56	○2.49	2.50	2.78	2.78	2.71	2.70
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	2.52	2.50	○△2.38	2.40	2.63	2.63	○△2.51	2.54
24．性経験が進んでいる	2.01	2.12	2.08	2.08	1.63	1.76	1.75	●1.80
25．正義感が強い	2.62	2.68	○△2.48	▲2.54	2.52	2.56	2.44	2.48
26．性格が暗い	1.80	1.75	1.81	1.78	1.66	1.57	△1.76	●▲1.83
27．遊び中心の生活をしている	1.64	1.71	1.70	1.74	1.47	1.46	1.49	1.51
28．おとなになったら幸せな生活ができる	2.36	2.27	○2.20	●2.23	2.51	2.49	○2.40	●2.39
29．異性にもてる	2.36	2.40	○△2.23	●▲2.24	2.35	2.43	2.32	▲2.28
30．ルールを守って遊べる	2.62	2.53	2.52	2.50	2.70	2.74	2.63	2.65
31．意志が弱い	1.65	1.67	1.62	1.55	1.51	1.53	1.65	1.65
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	1.96	2.02	△1.88	▲1.88	2.04	2.12	△1.93	▲1.95
33．おとなになったら良い親になる	2.41	2.31	○2.20	●2.25	2.47	2.49	2.37	2.36

徒の支援を受け，クラスを支配し，まじめな生徒を排除するということも充分考えられるのである。

したがって，成績「上」「中」「下」の生徒では，6少年に対する認識やラベリングに違いを示すし，それゆえ彼らの「生徒文化」は内容を異にすると推論しえるのである。つまり命題⑫は成立すると，推論しえるのである。

第4章　非行少年像の学生生活別差異

(1)　7少年に対するイメージの学生生活別差異

第2章，第3章に引き続いて，7少年に対するイメージを今度は学生生活の過ごし方別に考察してみることにする。表9-a，表9-b，表9-cがそれである。なおここでは4類型あるので「出世主義型」対「儀礼主義型」等と6対の有意差を求めてある。したがって1つのセルに最高3つまで肯定的イメージの記号がつくことになる。

表9-aの校内暴力少年に対するイメージをみると，有意差の認められる項目で肯定的イメージはほとんど「青春主義型」(22項目，33記号)「逃避主義型」(20項目，31記号)になっている。つまり校内暴力少年に対しては，「青春主義型」「逃避主義型」の生徒の方が肯定的にイメージを描いているということである。

同じことが暴走族少年およびツッパリ少年に対するイメージでもいえる。有意差の認められる項

表9-c　7少年に対するイメージの学生生活別差異（つづき）

	まじめな少年				自分自身			
	出世型	儀礼型	青春型	逃避型	出世型	儀礼型	青春型	逃避型
1．自分勝手である	○2.23	△2.22	2.04	*2.15	±◐2.17	1.92	*2.00	1.84
2．子供の頃いじめっ子だった	2.48	2.50	2.46	2.48	●2.75	△▲2.79	2.62	2.61
3．大学まで進学できるだろう	1.36	1.28	1.37	1.38	○◐1.58	△▲1.64	1.92	2.00
4．心がやさしい	○◐1.91	1.97	2.04	2.03	●1.62	▲1.67	*1.68	1.81
5．おとなになったら出世する	1.57	1.64	1.59	1.59	±◐1.87	2.02	2.02	2.06
6．さびしがりやである	2.01	1.95	1.95	2.03	±○2.04	1.73	*△1.98	1.78
7．クラスの友達にきらわれている	2.03	2.01	1.90	1.90	±●2.38	2.14	*△2.39	2.25
8．落ちついている	1.38	1.44	1.38	1.44	±◐1.74	▲1.96	*2.09	2.21
9．青春を楽しんでいる	○2.20	2.26	2.34	2.27	±●1.49	▲2.19	*△1.40	1.87
10．おとなになったらまじめな生活を送る	1.39	1.51	1.47	1.50	○◐1.32	△▲1.43	1.58	1.64
11．勉強ができる	1.38	1.43	1.38	1.42	±◐1.78	△▲1.96	*2.18	2.32
12．「かっこいい」または「ナウい」	○2.49	△2.50	2.65	2.59	+2.35	▲2.59	*△2.29	2.39
13．先生に好かれている	1.29	1.37	1.32	1.30	±◐1.86	2.05	*2.00	2.13
14．素直である	○◐1.67	1.80	1.87	1.83	±●1.75	1.97	*△1.78	1.96
15．遊び好きである	2.35	2.30	2.39	2.38	○◐1.67	△▲1.77	1.41	1.41
16．おとなになったら心のやさしい人になる	○◐1.86	1.94	2.03	2.00	○◐1.52	▲1.60	*1.67	1.75
17．一部の同じ仲間とだけ仲が良い	●1.84	▲1.85	1.72	1.65	±●2.30	1.98	*△2.39	2.08
18．スポーツが得意である	2.29	2.28	2.36	2.39	±●2.06	▲2.35	*◐△1.77	1.99
19．将来に向かって努力している	+1.26	1.41	1.36	1.38	±◐1.34	▲1.63	*1.71	2.00
20．遊びと他の生活とのけじめができている	1.29	1.43	1.40	1.36	±◐1.56	▲1.87	*1.88	2.15
21．若々しさがある	○◐2.16	2.29	2.36	2.37	±●1.56	▲2.03	*△1.44	1.79
22．親とうまくいっている	1.41	1.46	1.47	1.46	±●1.35	1.59	*△1.43	1.64
23．規律正しい，しっかりしたおとなになる	1.53	1.52	1.58	1.57	±◐1.54	▲1.77	*1.83	1.93
24．性経験が進んでいる	2.51	2.53	2.54	2.55	2.65	△▲2.78	2.65	2.61
25．正義感が強い	○◐1.75	▲1.81	1.93	1.98	±◐1.61	▲1.78	*1.78	1.92
26．性格が暗い	1.80	1.78	1.76	1.75	±●2.60	▲2.12	*△2.62	2.33
27．遊び中心の生活をしている	2.65	2.67	2.61	2.64	○◐2.45	△▲2.40	*2.01	1.83
28．おとなになったら幸せな生活ができる	±○1.71	1.87	1.88	1.82	●1.60	1.74	*1.70	1.81
29．異性にもてる	2.21	2.22	2.30	2.29	+2.24	▲2.52	*△2.20	2.32
30．ルールを守って遊べる	1.40	1.37	1.43	1.51	○◐1.40	△▲1.47	*1.61	1.75
31．意志が弱い	○2.06	1.98	1.87	1.92	±◐2.32	1.76	*△2.14	1.88
32．子供の頃みんなとよく遊んだ	○◐1.78	1.95	1.95	1.95	1.40	▲1.50	*◐△1.19	1.34
33．おとなになったら良い親になる	○◐1.68	1.79	1.83	1.85	○◐1.53	1.66	*1.67	1.74

目では，肯定的イメージのほとんどがやはり「青春主義型」と「逃避主義型」に片寄っている。暴走族少年の場合は，肯定的イメージが「青春主義型」で15項目，23記号，「逃避主義型」で18項目，25記号，そしてツッパリ少年の場合は肯定的イメージが「青春主義型」で21項目，31記号，「逃避主義型」で18項目，29記号である。したがって暴走族少年やツッパリ少年に対しても，「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒の方がイメージを肯定的に捕えているといえるのである。

校内暴力，暴走族，ツッパリの3少年程ではないが，やはり同様の傾向を示しているのが，表9-bの万引き少年とシンナー乱用少年へのイメージである。前3少年に比べて有意差の認められる項目はやや少ないが（つまり4つの型での差異は前3少年程ではないが），それでも肯定的イメージは「青春主義型」「逃避主義型」に片寄っている。万引き少年の場合は，肯定的イメージが「青春主義型」で20項目，26記号，「逃避主義型」で14項目，18記号，そしてシンナー乱用少年の場合は，肯定的イメージが「青春主義型」で11項目，13記号，「逃避主義型」で13項目，17記号である。したがってここでも「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒の方がイメージを肯定的に捕えているといえよう。

表9-cのまじめな少年に対してのイメージでは，有意差の認められる項目で肯定的イメージは「出世主義型」に片寄っている（肯定的イメージ

は14項目，22記号)。つまり，「出世主義型」の生徒のみがまじめな少年のイメージを肯定的に描いている，ということなのである。

最後に自分自身についてのイメージであるが，全ての項目で有意差が認められる。自分以外の6少年に対するイメージよりも，自分自身のイメージの方が現実的なので，それだけイメージが多様化しているのであろう。「出世主義型」の生徒はほとんど全ての項目でセルフ・イメージを肯定的に捕えている(31項目，67記号)。次に「青春主義型」の生徒が大部分の項目でセルフ・イメージを肯定的に捕えている(27項目，42記号)。第3番目が「儀礼主義型」の生徒であり，22項目，30記号で肯定的に自己をイメージ化している。最もセルフ・イメージが貧しいのは「逃避主義型」の生徒であり，肯定的イメージの項目は1つもない。彼らは他の3つの型の生徒に比べると自己に対するイメージがきわめて貧しいのである。

以上7少年に対するイメージを学生生活の過ごし方別にみてきたわけであるが，成績別の場合と同様の結果が出てきた。校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年に対するイメージは，「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒，つまり「遊びや部活中心の学生生活」を送っている生徒の方のが肯定的，寛容的であることが分かった。また，万引き少年とシンナー乱用少年に対するイメージも，前3少年ほどではないが，それでも肯定的，寛容的であることが分かった。しかし，まじめな少年に対しては「出世主義型」の生徒だけが肯定的で，他の3型の生徒はそれに比べ否定的であった。そして自分自身に対しては「出世主義型」「儀礼主義型」「青春主義型」の生徒が肯定的にイメージ化しているのに比べ，「逃避主義型」の生徒は否定的にイメージ化していた。「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒のイメージは，他の6少年に対してはきわめて類似していたが，自分自身をどうみるか，ということによって大きくくい違ったわけである。

したがって7少年に対するイメージは学生生活の過ごし方によって違いを示すという命題⑬-aは検証されたといってよいであろう。

(2) 望む関係の学生生活別差異

表10（77頁）は6少年に対して「出世主義型」「儀礼主義型」「青春主義型」「逃避主義型」それぞれの生徒がどのような関係でいたいかを表わしたものである。

表の左側からみていくと，「出世主義型」の生徒では校内暴力少年と友好関係（「友達になりたい」と「軽いつきあいならしてもいい」）を望んでいる者（容認派）は7.2%なのに対して「逃避主義型」の少年では20.7%と約3倍になっている。暴走族少年に対しても容認派は「出世主義型」の生徒が10.1%なのに対して「逃避主義型」の生徒は27.5%とこれも3倍近く多い。こうした傾向は多かれ少なかれ表でみるとおり，ツッパリ少年，万引き少年，シンナー乱用少年にも見受けられる。つまり，「出世主義型」の生徒と「儀礼主義型」の生徒は，問題少年群に対して排除の度合いが高いのに比べて，「青春主義型」の生徒と「逃避主義型」の生徒では，問題少年群に対して容認の度合が高いのである。しかしまじめな少年に対しては逆に，「出世主義型」と「儀礼主義型」の生徒が友好的対応を，「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒は嫌悪的対応を示している。

こうした傾向は前出の表6からもうかがえる。「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒は，校内暴力少年，暴走族少年，ツッパリ少年に対して友達になりたいという度合いが高いことが分かる。「逃避主義型」の生徒ではまじめな少年よりもツッパリ少年の方と友達になりたいと思っているのである。

以上のことから，6少年に対して望む人間関係は学生生活の過ごし方によって違いを示す，という命題⑬-bは検証されたといえるのである。

(3) 生徒文化の学生生活別差異

「出世主義型」と「儀礼主義型」の生徒はどちらかといえば，「学校文化」にのっとって学生生活を過ごしている学生であろう。そして「青春主義型」と「逃避主義型」の生徒はどちらかといえば，「生徒文化」にのっとって学生生活を過ごしている学生であろう。したがって7少年に対するイメージと6少年との望む関係とが，「出世主義型」生徒，「儀礼主義型」生徒と「青春主義型」生徒，「逃

避主義型」生徒とによって差異を示したことは，きわめて意味深いことである。前者の「学校文化」志向の生徒が問題少年群を否定的なイメージで捕え，嫌悪的であるのに対して，後者の「生徒文化」志向の生徒が問題少年群を好意的なイメージで捕え，友好的であるということは，学校に「学校文化」と「生徒文化」の異質な2つの文化（もしくは2つの行動規準，2つの価値意識）が存在し，問題少年とまじめな少年をとりまいて正反対に対応していることの1つの証しであろう。

したがって命題⑬はまさに推論されたといえよう。

終章　要　　約

今までの記述より，命題⑧から⑬まで，その一部は直接調査データより検証され，残りの一部は間接的に推論された。今我々はここに，問題少年やまじめな少年や自分自身に対する認識やイメージ，そして問題少年やまじめな少年に対する望む関係が，性や成績や学生生活の過ごし方によって差異を示すことが分かった。そしてその内容が男子生徒，成績「上」の生徒，「学校文化」志向の生徒のまじめな少年肯定，問題少年否定の傾向を，それと反対の女子生徒，成績「下」の生徒，「生徒文化」志向の生徒のまじめな少年否定，問題少年肯定の傾向を示していることも分かった。そしてこれらのことから，ラベリングが，「よい子」が「悪い子」に貼る，という一方的な流れでは決してないことが分かった。もっと生徒間の力関係は流動的であり，そこでのサブ・カルチュアはおとなの理屈や道徳的規準では割り切れない多面性を持っていることが分かったのである。

注

1）「中学生にみる非行少年像」『犯罪社会学研究』8号，1983，日本犯罪社会学会編，131～155頁

2）「学校文化」「生徒文化」に関しては次の文献を参照されたい。

○野村哲也「都市高校生の生活態度と価値観—その分化と学校差—」『教育社会学研究』第22集，1967，70～88頁

○武内清「生徒の下位文化をめぐって」『教育社会学研究』第27集，1972，173～178頁

○白石義郎「“生徒サブ・カルチャー”再考」『教育社会学研究』第31集，1976，153～162頁

○武内清「学校規模と生徒文化」『東京大学教育学部紀要』第17巻，1978，21～29頁

○米川英樹「高校における生徒下位文化の諸類型」『大阪大学人間科学部紀要』第4巻，1978，185～208頁

○白石義郎「高等学校における生徒文化の形態と機能に関する調査研究(1)—生徒文化の類型を中心として—」『九州大学教養学部紀要（教育学部門）』第24集，1978，147～164頁

○武内清「現代高校生の下位文化」『武蔵大学人文学会雑誌』第10巻，1979，83～95頁

○深谷昌志，他『モノグラフ・高校生'80，vol.2，高校生の生徒文化』1979，福武書店

○耳塚寛明「生徒文化の分化に関する研究」『教育社会学研究』第35集，1980，111～122頁

○武内清「生徒文化と非行」『犯罪と非行』No.45，1980，日本矯正福祉協会，117～128頁

○渡部真「高校生の問題行動についての一考察」『犯罪社会学研究』5号，1980，166～187頁

○武内清「高校における学校格差文化」『教育社会学研究』第36集，1981，137～144頁

○秦政春「現代高校生の類型と意識構造」『福岡教育大学紀要（教職科編）』第29号，1979，23～49頁

○松原治郎，他「高校生の生徒文化と学校経営(1)」『東京大学教育学部紀要』第20巻，1981，21～57頁

○樋口大二郎「中・高校生の問題行動に関する研究—生徒文化研究適用による検討—」『教育社会学研究』第37集，1982，139～150頁

○渡部真「高校間格差と生徒の非行的文化」『犯罪社会学研究』7号，1982，170～185頁

3）マイナスのイメージはマイナスのレッテル貼りの前段階であり，マイナスのレッテル貼りは排除という行為のレディネス（readiness）であるといえよう。

4）高橋良彰「青少年の少年非行像」『科学警察研究報告・防犯少年編』22巻1号（41号）昭和56年7月，109～114頁